



## 生徒会のやる気

全校集会で、生徒会からの呼びかけがありました。(詳細については、2/7発行の生徒会新聞や保護者あての協力依頼の文書をご覧ください。)右のようなプレゼンテーションを使っての呼びかけも立派でしたが、もっと感心することがありました。

それは、「エコキャップ運動」の実施にあたり、学校でやるだけでなく、町内のコンビニなどにも回収箱を設置し、この運動を地域に広げようとしていることです。早速、啓発ポスターを作成し、設置させてほしい場所をお願いに行きたいという申し出がありましたので、即OKを出しました。もしかしたら、断られるかもしれません。でも、まず第一歩を踏み出す勇気が大切なのです。生徒会のやる気が、全校生徒のパワーとなり、詫間町内に広がっていくことを期待しています。

### スマイルアフリカプロジェクト

#### 合言葉

「利用可能なシューズを回収し、アフリカの子どもたちにシューズを届ける。」

「子どもたちに笑顔のシューズを送ろう。」

### エコキャップ運動

#### 趣旨

「病気で困っている世界の子どもたちの命を救おう」



ペットボトルのキャップを回収

## 研究授業第3弾 ~先生方も全力疾走しています~

今年、先生方はよりよい授業をするために、月曜日の6校時に研究授業を行い、その後で勉強会を行っています。今回は、1年生3クラスで研究授業を行いました。1組は、近井先生が消費者を取り巻く問題として、悪質商法の対応を考える授業を行いました。金銭教育と関連させた家庭科の授業で、生徒たちは「きっぱりと断る」「親に相談する」など、トラブルに巻き込まれないためにどうするかを真剣に考えていました。3組は、高橋先生と綾養護教諭の2人で保健の授業をしました。性の悩みや不安をうまく乗り越えるためにはどうすればよいかを男女別のグループで話し合った後、全体で交流しました。思春期における心と身体の変化について考えることができました。4組は、川原先生が「技術とものづくり」としてオーディオラック製作の授業を行いました。ねじ切りの作業を行う前に、プロジェクターを使ってアニメーションを見せ、作業のポイントを理解させておいたので、生徒たちはとてもわかりやすかったと思います。

2月19日「浦島デー」の授業も楽しみにしててください。

### 連載

### A教頭の「走ることのススメ」③ ~フルマラソンへの挑戦~

次なる夢...それはランナーのだれもがあこがれる42.195kmへの挑戦である。私は「小豆島タートルフルマラソン」を目標にした。しかし、当時の参加資格は男子が35歳以上。仕方なく、3年間待つことにした。

そして、平成6年。いよいよその時がやってきた。ところが、3年という年月は私にとって長すぎた。復活に燃えていた頃のように練習に身が入らず、極端に練習量が落ちてしまっていた。期待より不安の方がはるかに大きかった。それでも当時担任していた3年生が、私の夢への挑戦を知り、大会直前に応援の気持ちを込めた色紙をくれたため、「完走する」と宣言してしまった。約束したからには、なんとしても完走したかった。気持ちだけは高ぶっていた。

しかし、フルマラソンは甘くなかった。20kmまでは1時間55分と予定通りのペースで走れたが、折り返し付近から足の痛みが襲われ、足が思うように動かない。それでも、何とかゴールにたどり着きたいという思いのみで体を前に進めた。しかし、海からの冷たい風は、私の体力どころか、気力までも奪って行ってしまった。そして、25km手前で無念のリタイア。夢は夢に終わってしまった。完走できなかったことはもちろん、生徒たちとの約束を破ってしまったことがつらかった。

翌、平成7年。今度は何としても完走したかったので、ハーフの部にエントリーした。再びフルに挑戦しないのは情けないが...(-\_-;)。しかし、この時も練習不足がたたりに、15km付近からまたまた足が痛みだし、最後は歩いてしまった。ゴールは果たしたものの、悔いの残るレースであった。でも、ゴールでミスオーリーブからタオルをかけてもらえてうれしかった(\*^\_^\*)。また、「完走」という言葉の響きがとても心地よかった。

しかし、フルマラソンへの夢は捨てきれなかった。そして、平成11年。あることをきっかけに、再びフルマラソンにエントリーすることになった。(つづく)